

キャラクター名 プレイヤー名

メインクラス	メイジ	Lv.1:		レベル	7
サポートクラス	ニンジャ	Lv.1:	ニンジャ	性別	女性
称号クラス				年齢	17(外見) 10(中身)
種族	ヒューリン			境遇	天啓
出自(効果)	王侯貴族			目標	経験

	筋力	器用	敏捷	知力	感知	精神	幸運
基本値	14	9	18	9	15	17	9
ボーナス	4	3	6	3	5	5	3
クラス修正	0	1	1	2	1	1	0
他修正							
能力値	4	4	7	5	6	6	3

HP	58
MP	85
フェイト	5

装備品		射程	命中	攻撃	回避	物防	魔防	行動	移動
右手	スタッフ	至近	-1	2	0	1	0	0	0
左手									
頭部	黒頭巾				1	1			
胸部	黒装束					6			
補助	護りの指輪				1	2	1		
装身具	忍具								
能力値			4	0	7	0	6	13	9
スキル									
その他									
総計(右)			3	2					
総計(左)					9	10	7	13	9
総計(両)									m
ダイス数			2 d	2 d	2 d				

	能力値	スキル	その他	合計	ダイス数
トラップ探知	6			6	+ 2 d
トラップ解除	4			4	+ 2 d
危険感知	6			6	+ 3 d
エネミー識別	5	3		8	+ 2 d
アイテム鑑定	5	3		8	+ 3 d
魔術判定	5	1		6	+ 3 d
呪歌判定					+ d
錬金術判定					+ d

所持品	
冒険者セット	
MPポーション	
高級水着	
HPポーション	
ベルトポーチ	
使用人	
忍具	
大きな目	
ハイMPポーション	
ドレス	

現在重量: 14 所持金: 401 預金・借金:

最大重量: 17

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
オールラウンド	★	-	パッシヴ	-	自身	-		
効果: キャラ作成時に任意の3つの能力基本値+1								
マジシャンズマイト	5	-	パッシヴ	-	自身	自動		
効果: 魔法攻撃のダメージに+[SLd]する。								
エンチャントウェポン: 風	1	5	メジャー	20m	単体	魔術		
効果: 対象の武器攻撃を、選択した属性の魔法ダメージに変更する。								
コンセントレイション	1	-	パッシブ	-	自信	-		
効果: 魔術判定+1D。								
ランドフィッシャー	3	4	マイナー	20m	自身	-		
効果: <地>属性の魔法ダメージに+[SL*2]。1点でもダメージを与えた場合[スタン]。								
バーストブレイク	3	-	メジャー	20m	範囲(選)	精神		
効果: [2D+SL*10]の貫通ダメージ。相手はリアクション自動失敗。シナリオ1回。								
ハンドシンボル: 爆	3	4	ムーブ	-	自身	自動		
効果: メジャーで使用する「対象: 単体」の魔術を範囲(選択)に変更する。シーンSL回。								
リゼントメント	1	-	効果参照	-	自身	自動	メイジ	
効果: 魔法攻撃の対象を単体に変更し、ダメージ+[SL*10] シナリオ1回								
アースバレット	1	6	メジャー		単体	魔術		
効果: 2D+5の<地>ダメージ。1点でもダメージを与えた場合[スリップ]。								
アースブレイカー	2	-	パッシブ	-	自身	-		
効果: <地>属性ダメージに+[SL*4]								
マジックフォージ	1	3	DR直前	-	自身	自動	シーン1	
効果: 魔法ダメージに+[(SL*2)D]								
ビックバン	1	-	効果参照	-	自身	-	-	
効果: バーストブレイクと同時に使用。ダメージ+[CL*5]								
ギフト	1	-	効果参照	-	自身	-		
効果: ダイスロール直前。+2D。シナリオ1回								
《ソト》+《バレット》+忍具	1							
効果: 7d+21・土属性スタンスリップ								
ヒストリー	1	-	パッシブ	-	自身	-		
効果: 国や町の歴史、人物、過去の出来事を調べる判定に+1D。								

幼い頃、女の子が憧れる人は。
 例えば、不思議な魔法使い。例えば凛々しい女騎士。例えば美しい歌手。例えばお菓子職人。例えばお嫁さん。
 例えば……例えば……ドレスに身を包んだお姫様。

例えば、本当にお姫様だった彼女は。

* * *

ミレイユはパリソ同盟に加わった小国『オーリセンス王国』の第三王女だった。
 一番上の姉は社交会へ行く準備を着々と進め、二番目の姉は勉強の傍ら剣術を身に付けていた。
 両親は男児は授からなかったが、それでも二人の姉は王族としての行く先をなんとなく掴もうとしていた。
 ミレイユが6歳の頃だった。

まだ幼い彼女は、難しい単語や文法の読み書きが少しだけ、できるようになったばかりで。
 城の蔵書の棚の低い位置から本を選び、乳母や召使や母親に本の読み聞かせをねだるのが日課だった。

「ご本を読んで！」
 ある夜、ミレイユが目を見ながら一冊の、草色の表紙の本を持ってきた。
 「ミレイユ？これは棚のどこから持ってきたの？」
 今夜のパートナーに選ばれた母親は受け取る前に、初めて見る印象の本を見て、質問した。
 「えっと、ほんだなの下から二つ目の、一番奥！」
 母親は少し驚いた。今までは絵本の多い一番下の棚から選んで持って来ていたのに。

